

森政三コレクションの中城御殿古写真

上江洲安亨^{*1}

I. はじめに

森政三コレクションは、沖縄美ら島財団所蔵の古写真・図面・拓本等の資料群である。旧所蔵者である森政三（1895～1980）は、戦前の文部省技官で、1929（昭和4）年の「国宝保存法」の制定以後、様々な国宝や重要文化財の調査や保存修理に携わり、戦後も、日光東照宮の修復に長年携わった。日光東照宮以外にも、二荒山神社や、神王寺、長崎の大浦天主堂等の建造物の修復に携わっている。

森政三は、沖縄の文化財の保存修理事業にも戦前から携わっていた。1936（昭和11）年、首里城の守礼門の修理に携わった。戦後も、1955（昭和30）年に沖縄の戦災で破壊された文化財の実態調査と復元計画の立案に参画し、翌1956（昭和31）年に園比屋武御嶽石門の設計監督となった（翌年竣工）。1957（昭和32）年には守礼門復元工事の設計監督を委嘱されている。この守礼門は翌1958（昭和33）年に復元された。

戦前から沖縄の古建築の調査や保存修理に携わっていたことに関係すると考えられるが、森政三は、先述のとおり、調査時に記録として残した古写真・図面・拓本等を膨大に残している。その中には、首里城跡内の画像や様々な沖縄の文化財の画像も残されている。今回は、そのコレクションの中で戦前、大中に所在した中城御殿を撮影した古写真を紹介する。

II. 森政三が沖縄調査で撮影した中城御殿の古写真

森政三は、1936（昭和11）年に守礼門の修理に携わっていたため、彼が残した戦前の沖縄関係の古写真の多くは、この時期のものと考えられる。

中城御殿関連の古写真は、32枚あり、その内、7枚は、「中城御殿御普請板図」^{*2}（以下、「板図」と略す）の表面と裏面を撮影したものである（翻刻図を図1として掲載）。25枚は中城御殿の建造物及び庭園の石燈籠等の写真である。

写真4の中城御殿の中央部にあたる向御中門に繋がる写真が2枚あり、画像としては24画像撮影されている。本論では、過年度紹介した「板図」を除く24画像を紹介する（写真1～24）。写真を掲載して紹介することにより、様々な沖縄の歴史文化を研究する観点から、この写真が活用されることを期待するものである。

この写真画像を活用するにあたっての留意点として、森政三が何時、中城御殿を撮影したのかということを留



森政三

戦前、沖縄調査時の写真。首里城二階御殿で撮影

*1 一般財団法人沖縄美ら島財団 首里城公園管理部 首里城事業課 副参事

*2 『首里城公園管理センター 調査研究・普及啓発事業年報』No.2（平成22年度） 財団法人 海洋博覧会記念公園管理財団 平成24年3月

意しなければならない。写真を保管していた封筒には「中城御殿」と記されていただけで時期等の記述はなく、今のところ、森政三コレクションの別資料から撮影時期を示す記録も残っていない。ただ先述の通り森政三は戦前、1936（昭和11）年に守礼門修理に携わっていたことから、昭和11年当時の撮影記録と考えることが妥当なのではないかと考える。それは後述するが撮影された写真画像の内容からも窺い知ることができる。

本稿では簡単な画像の紹介に留めたいと思うが、撮影された写真画像の詳細な分析や考察は別稿若しくは琉球・沖縄の歴史文化の研究者の活用に譲りたい。本画像は、過年度公開した「板図」と共に、中城御殿の復元可能性を高める基礎的な重要情報になるものと思われる。

<建造物・御獄・井戸>

写真1は、中城御殿内庭園側から本御門^{*3}と呼ばれる正門を裏から撮影した画像。写真2は、東側の副御門を北側から南に向かって撮影した画像と思われる。写真3は、格子を撮影した画像であるが、この格子の間には貝を薄く研いで嵌めていたものと思われる。写真4は、本御門（正門）から入って、主殿である御寝廟殿前の向御中門に通じる通路で、「板図」では廊下と呼ばれている場所の画像。写真5・6は、写真5の門の道向うの遠景に龍潭の縁の石牆らしき画像があるので本御門（正門）とその門扉ではないかと思われる。写真7の礎石・礎盤、写真8の軒部分が敷地内のどの施設のものは不明である。写真9の二階建の建造物は、琉球王国末期、大中町に中城御殿を移転時の図面である「板図」には表記されておらず、近代に増築された建物と思われ、御二階御殿と呼ばれた建物の可能性があるが詳細は不明である。写真10の御獄は中城御殿奥の西側、上之御殿近くにあり現存している。写真11の井戸について、「板図」には本御門を入り、西側に御中門を通ると井戸があったと記載されている。ただ「板図」は井戸の周辺は瓦石垣が近接した表記となっているが、写真11は井戸の遠景に通常の石積の石牆らしき画像となっている。「板図」記載の同じ井戸と断定することは難しく近代以降に新た別場所に設置した井戸の可能性もある。

<石灯籠・手水>

写真13～19は、中城御殿敷地内、主に庭園にあった石灯籠と思われる。具体的に敷地内のどの場所に配置されていたかは今後検討を要する。写真20・21の手水も建物の縁側にあるが、中城御殿内のどの建物の縁側であるか今後検討を要する。

<御殿内>

中城御殿の屋敷内の画像は三枚あり、写真22は床間に大幅の虎図、松飾、貝摺奉行所製と思われる中央卓が飾られ、洋風の机・椅子の調度品が配置されている。1921（大正10）年に東宮殿下（後の昭和天皇）の行啓にあわせて大広間を洋風に改めたようであるため、写真22は「板図」にある御広間が洋風に改造された後、昭和に入って森政三の沖縄調査時に撮影されたものと思われる。写真23・24の部屋を断定するのは難しいが、「板図」の記載と比較すると写真23の床間が畳板で部屋の左側にある構造から歓会之間の可能性がある。但し「板図」の歓会之間の記載には畳板のある床間の手前に違棚は表記されてないが、写真23・24には違棚が設置された画像となっている。御殿内の別場所の可能性と近代以降の建物内の改装で内装が変わった可能性がある。写真23に畳板の上に松飾が配置されているが、その上部に電球と思われる器具が設置されている。写真23・24で違棚の増設は不明だが撮影された部屋は少なくとも近代以降に電気設備の増設等の改造はされていたと思われる。

*3 本御門、向御中門等の建造物の名称は、「板図」の記載に合せて表記している。

森政三コレクション中の中城御殿古写真



写真 1



写真 2



写真 3



写真 4



写真 5



写真 6



写真7



写真8



写真9



写真10



写真11

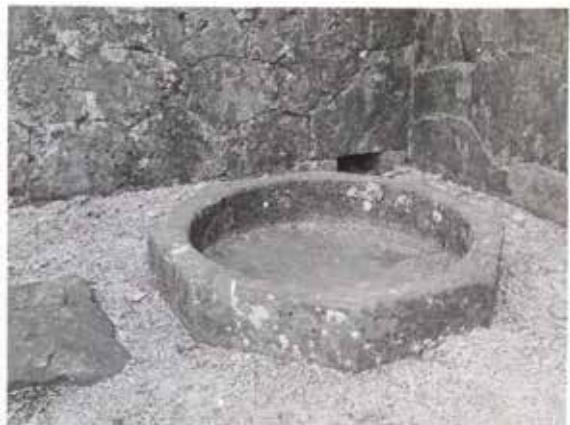


写真12



写真 13



写真 14



写真 15



写真 16



写真 17



写真 18



写真 19



写真 20



写真 21



写真 22



写真 23



写真 24

図 1 中城御殿御普請板図 翻刻図

